

事 務 事 業 評 価 シ ー ト

評価対象年度	平成 27 年度
--------	----------

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	外国青年招致事業費			
担当課係名	教育総務 課	教育指導 係	作成者	田口和典
総合計画での位置づけ	施策の大綱	個性豊かな心を育むまち		総合計画のページ 47
	基本計画	学校教育の充実		
	主要施策	基礎学力の向上と心の教育の充実		
予算費目	一般 会計	10 款 教育費	3 項 中学校費	2 目 教育振興費
事業期間	平成 18 年度 ~ 平成 年度		新規/継続の区分	継続
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理			
根拠法令等	学習指導要領			
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務			
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直 営 <input type="checkbox"/> 直営 (一部民間委託) <input type="checkbox"/> 民間委託 (全部) <input type="checkbox"/> 補 助			

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	国際社会で活躍できる子どもの育成を目指し、市内児童生徒の英語教育におけるコミュニケーション能力を高めるほか、外国人とのふれあいの体験の機会を充実させるために、外国青年派遣事業によるALTを招致し、小中学校に派遣する事業。
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	「小さな国際文化都市」の将来を担う、仙北市内の小中学校児童生徒の外国語(英語)の話す、聞く、書く、考える力を伸ばし、平成32年度までに中学校3年生の英検3級合格率を45%にする。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	角館・田沢湖・西木の3地区に各1人のALTを配置し、田沢湖・西木の中学校は基本的に隔月で勤務し週1回程度小学校に出務している。角館地区は角中を中心に角館小・中川小(白岩小は西木地区のALTが)に出務している。平成23年度から活用の自由度の高いJET (JET プログラムJapan Exchange and teaching) (自治体国際化協会)の外国青年招致事業として実施している。

【事務事業の推移】

項 目		単位	26年度実績	27年度実績	
効果	活動指標 小学校高学年の外国語活動、中学校の英語の学習でネイティブスピーカーとして教諭のアシスタントを行う。	目標	回	725	725
		実績	回	724	726
		達成度		99.9%	100.1%
	成果指標 最終的には、第2次仙北市総合計画に示された目標値である、平成37年度の中学3年英検合格率50%を目指す。	目標	項目		35
		実績	項目		34
		達成度			96.3%
投下コスト	項 目	総事業費	26度決算額(千円)	27年度決算額(千円)	
	事業費(人件費を除く)(A)		12,928	13,311	
	人 件 費 (B)	—	24,576	25,620	
	職 員 数	—	3.00	3.00	
	職員平均人件費	—	8,192	8,540	
	(A) + (B) 投下コスト	—	37,504	38,931	
	財源内訳	国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
一般財源		37,504	38,931		
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)	—	51,801	53,624	
	市民1人当たりのコスト(円)	—	1,298	1,372	

【事務事業の今までの成果】

平成27年度、仙北市の中学3年生の英検3級合格率は33.7%となっている。また、平成27年度、秋田県英語暗唱弁論大会で角館中の戸澤彩さんが最優秀賞、平成28年度は神代中学校2年の佐藤愛海さんが最優秀賞を受賞し、秋田県英語暗唱弁論大会で2年連続市内中学生が最優秀賞を受賞し、全国大会である高円宮杯英語弁論大会に出場した。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	文部科学省は、平成32年に小学校の英語を教科化して高学年で週3時間程度実施し、外国語活動を小学校中学年で実施する。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	今後10年間に於いて仙北市が目指す姿と直結する事業であると同時に、これからの国際社会を生き抜く力の根幹となる事業であり、市民の期待も大きい。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
B 1	A 現状のまま継続（実施）	第2次仙北市総合計画基本計画（前期）の「まちづくりの目標」における平成32年度の目標値である中学校3年生の英検3級合格率を45%を達成し、「小さな国際文化都市」の将来を担う仙北市内の小中学校児童生徒の外国語（英語）の読む、聞く、話す、書くを伸ばすために、基本計画の目標値である「ALTの1人増員、英語指導非常勤の1人増」を達成するため、継続（拡大）が必要と判断した。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

「まちづくりの目標」における平成32年度及び平成37年度の目標を達成するためには、人的配置と同時に、小中学校での指導方法の工夫改善が必要であり、北浦教育文化研究所の職員研修面における機能をこれまで以上に発揮する必要がある。

【二次評価】

判定	判定に至った理由
B 1	今年度末にも明らかになる新学習指導要領（小学校で平成32年度全面実施）では、これまでの小学校5年生から実施されていた外国語活動が小学校3年生から始まり、5年生からは週3時間実施に拡充されることになる。ますます外国語活動の充実が図られる状況にあり、ALTの小学校への拡充が今後必要である。

